

# 大隅地域感染症情報 2018

第42週報（10月15日～10月21日）  
大隅地域振興局保健福祉環境部

## ○定点医療機関からの定点当たり報告数

- ・水痘について，志布志保健所管内で大きく増加しました。
- ・鹿屋保健所管内の流行性角結膜炎は，減少傾向です。

疾病	警報レベル 開始/終息 基準値	注意報 基準値	鹿屋保健所管内推移				志布志保健所管内推移				大隅全体	県全体
			39週	40週	41週	42週	39週	40週	41週	42週	42週	41週
インフルエンザ	30.00/10.00	10.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.08	0.01
RSウイルス感染症	-	-	1.20	1.00	0.00	0.60	2.00	0.67	0.67	1.67	1.00	0.78
咽頭結膜熱	3.00/1.00	-	0.80	1.20	0.60	0.60	0.00	0.00	0.00	0.33	0.50	0.56
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.00/4.00	-	0.80	0.40	1.00	0.40	0.00	1.67	2.00	1.00	0.63	1.65
感染性胃腸炎	20.00/12.00	-	6.40	6.00	9.00	8.40	5.33	7.00	6.33	6.67	7.75	4.61
水痘	2.00/1.00	1.00	0.20	0.00	0.60	0.00	0.00	0.00	0.00	1.67	0.63	0.28
手足口病	5.00/2.00	-	0.20	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.26
伝染性紅斑	2.00/1.00	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.11
突発性発疹	-	-	0.80	0.60	1.20	0.20	0.00	0.33	0.33	0.67	0.38	0.50
ヘルパンギーナ	6.00/2.00	-	0.80	1.60	1.20	0.80	0.33	0.00	0.33	0.00	0.50	1.81
流行性耳下腺炎	6.00/2.00	3.00	0.60	1.60	0.40	0.20	0.33	0.00	0.00	0.00	0.13	0.13
急性出血性結膜熱	1.00/0.1	-	0.00	0.00	0.00	0.00						-
流行性角結膜炎	8.00/4.00	-	11.00	9.00	7.00	5.00						2.29
基幹定点疾患			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		

■ 警報基準値以上    ■ 注意報基準値以上

## ○感染性胃腸炎について

【 警報開始基準値 20.0， 警報終息基準値 12.0 】

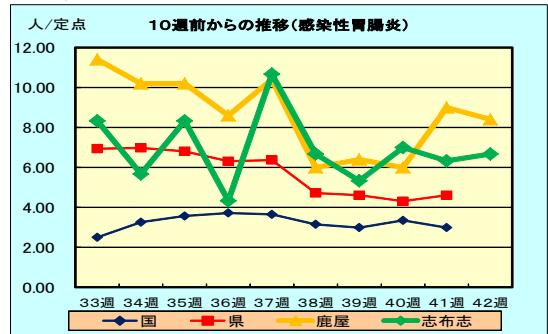
（感染性胃腸炎一図1）※第42週は鹿屋・志布志のみ掲載

感染性胃腸炎の発生状況は，

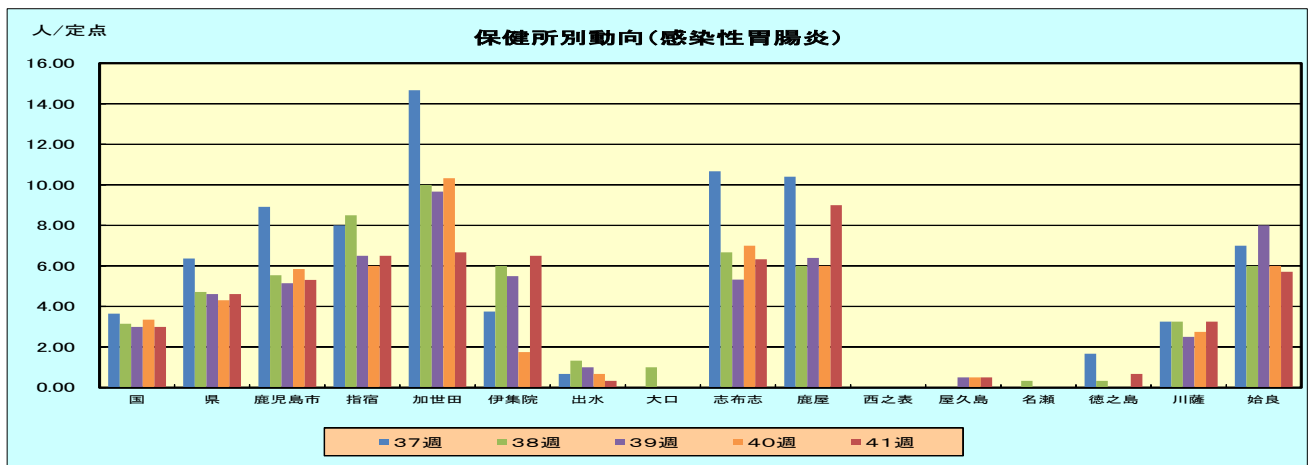
鹿屋保健所管内からは42名（定点当たり報告 8.40）の報告がありました。

志布志保健所管内からは20名（定点当たり報告数 6.67）の報告がありました。

年齢別では，1歳が最多でした。



（感染性胃腸炎一図2）県内保健所別感染性胃腸炎報告



## ○RS ウイルス感染症について

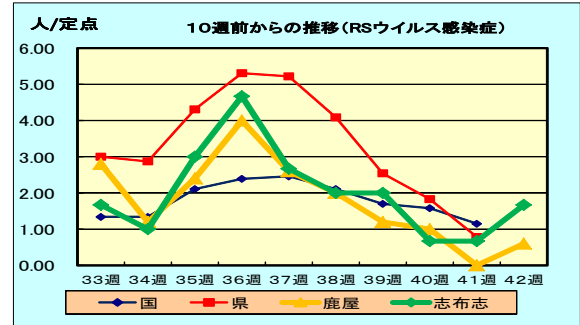
RSウイルス感染症の発生状況は、

鹿屋保健所管内からは3名（定点当たり報告数 0.67）の報告がありました。

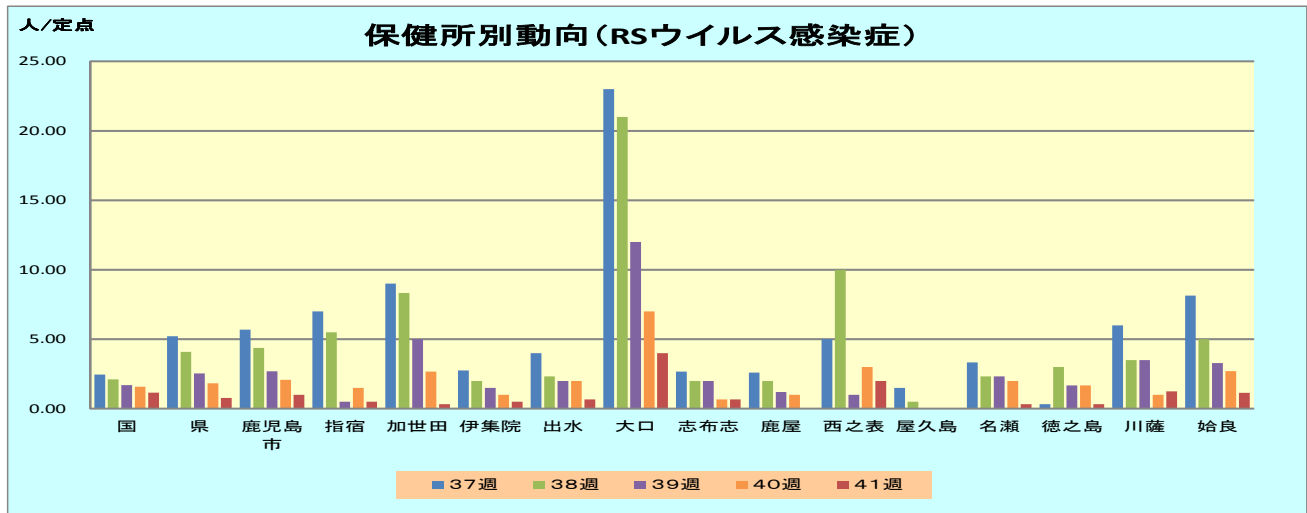
志布志保健所管内からは5名（定点当たり報告数 1.67）の報告がありました。

年齢別では、全員2歳以下でした。

（RSウイルス感染症一図1）※第42週は鹿屋・志布志のみ掲載



（RSウイルス感染症一図2）県内保健所別RSウイルス感染症報告



## 水痘の予防について

### 水痘とは

いわゆる「みずぼうそう」のことで、水痘帯状疱疹ウイルスによって起こる発疹性の病気です。

子どもに多く、一般的に軽症ですが、熱性けいれん等の合併症による重症化も見られます。まれに成人にも発症し、重症化するリスクが高いとされています。

季節的には、毎年12月～7月に多く、8月～11月には減少が見られます。

### 感染経路

飛沫感染や水疱内容物との接触による接触感染などがあります。ウイルスの排泄期間は、発疹出現から水疱が現れている期間とされています。

### 予防方法

患者との接触を避ける、手洗いの励行、ワクチン接種 などです。

※学校保健安全法での取扱いについて

水痘は、学校における予防すべき感染症第2種対象疾病に規定され、すべての発疹が痂皮化するまで出席停止とされています。ただし、医師が病状により伝染のおそれがないと認められたときにはこれに限らないとされています。